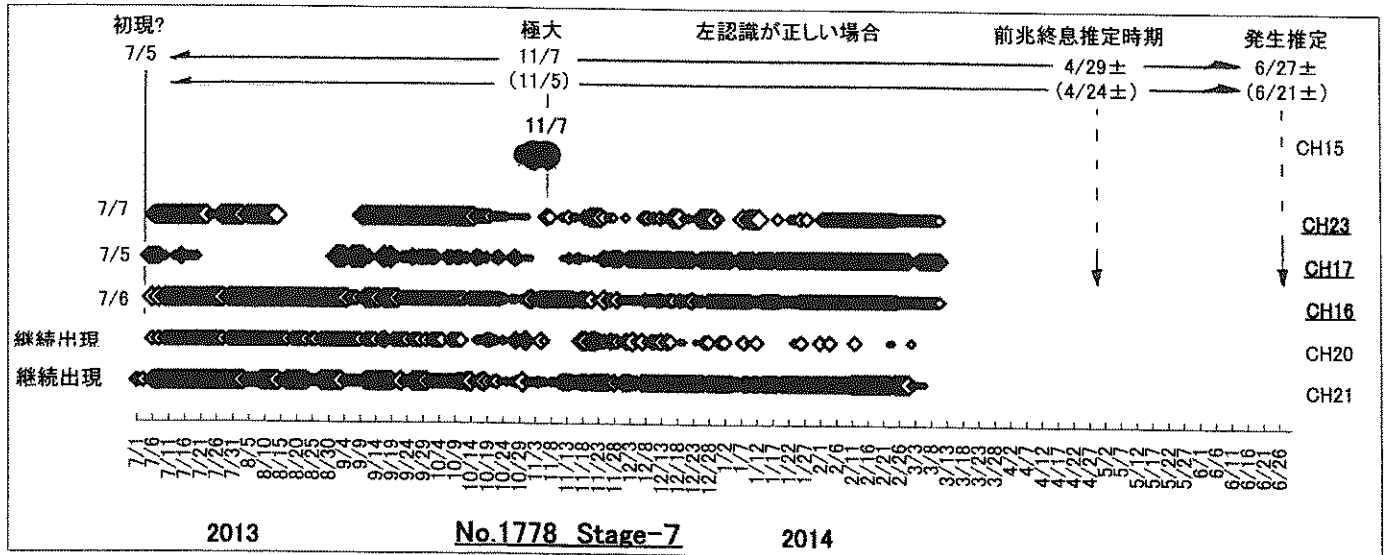
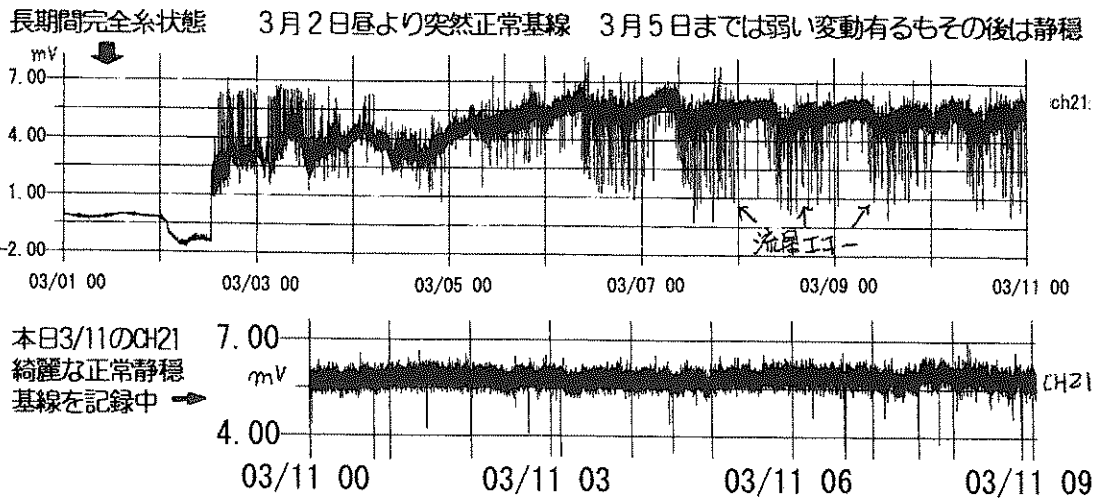


原稿校了後の前兆変化について

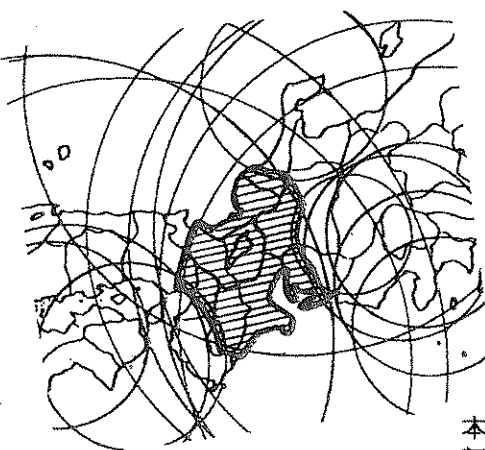
ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報
CH21 特異終息維持 4年4ヶ月ぶりの正常基線維持

3月3日配信の実験観測情報で報告し、3月7日配信の実験観測情報で続報致しましたとおり、長期間系状特異を記録しておりました、ハヶ岳のCH21観測装置の基線が3月2日の昼に突然、系状特異が終息し、正常基線幅(基線電圧値も正常)の基線を記録いたしました。右波形コピーのとおり、3月5日までは弱い変動が見えますが、その後は正常基線を記録中。CH21のこれだけ長い正常基線は2009年11月以来で実に4年4ヶ月ぶりの現象です。



以前の前兆出現状況図に記しておりましたA4特異とCH26特異は、お伝えしております別の大型地震No.2317B + No.2443前兆関連であると認識され、No.1778前兆より削除。
現在11月07日(第6ｽｰﾗﾞが示した日でもある)極大を元に、上図の様な関係考えた場合、6月27日±時期が推定されます。11月03日にも弱い極大が見えるため、中心の11月05日を極大とした場合の計算も()で参考記載。現在までに新たな前兆、新たな極大も認識されないため、次の第8ｽｰﾗﾞに移行する可能性は少々考えにくく、現在の第7ｽｰﾗﾞが最終段階の可能性も有。現認識が正しい場合は、上図に記したとおり、4月下旬に前兆静穏化の可能性有。これを確認することが重要。現在顕著継続中前兆は、CH16, CH17, CH23の3観測装置だけとなりました。
C) Copyright 2014 YS80 ハヶ岳南麓天文台



No.1778 第7ｽｰﾗﾞの解析より

- 推定領域=左図太線内斜線域 陸域の震源浅い地殻地震推定
- 推定規模=M7.9 ± 0.5
- 推定時期= 現認識が正しい場合 6/27 ± ※今後の前兆変化で修正予定
- 推定発生時刻= 午前9時±2 or 午後6時±2

本情報はFAX 実験観測情報No.2481を転載。一部に公開実験参加者にしか分からない内容有。お許しください